

間質構造を制御した がんモデルの可能性

松崎 典弥 先生

大阪大学大学院工学研究科応用科学専攻 准教授

患者腫瘍のゲノム情報を解析し、それに基づき最適な治療方法を選択する個別化医療が、現在大きな期待を集めています。Patient Derived Tumor Xenograft (PDX) は個別化医療の開発に対する良い研究モデルではありますが、生存効率、高価格、低スループット等の課題があります。その解決のため、PDXモデルに代わるin vitroがんモデルの構築が求められています。本セミナーの演者である松崎典弥先生は、間質組織と毛細血管／毛細リンパ管を持ちがん微小環境を再現したin vitroがんモデルの開発を進めています。本講演では、細胞外基質の操作により三次元組織を再構築するアプローチとその癌研究への応用について講演頂きます。

2019. 5. 16 木

18:00～19:30 JKiC1階会議室

主催：JSR・慶應義塾大学医学化学イノベーションセンター
共催：慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

お問合せ先：JKiC産学医連携部門 Mail: jki-info@adst.keio.ac.jp